

ことばの学校だより

人は言葉を使って相手に意思を伝える動物です。より正確に、そして多くの情報を伝えるために、様々な言葉が生まれてきました。人が使う語彙数は年を重ねるにつれて自然に増えていくものです。しかし、最近の子どもたちには、学年が上がっても語彙数の増加があまり見られなくなっているように感じます。これは周りを取り巻くさまざまな環境の変化も影響しているのでしょう。俗に言う「キレル」子どもが生まれる背景としても、その年齢における標準語彙数が足りないことが原因のひとつとして挙げられます。自分の思いを相手にうまく伝えられないため、そのもどかしさからストレスがたまり、最後の手段として言葉ではなく体を使ってその複雑な思いを表現することになるのです。

先日、小3～中3生に語彙数診断テストを実施しました。このテストは50語の言葉に対して、それぞれ3択で意味が書かれており、そこからその言葉の正しい意味を表す一つを選ぶという形式で、一問1点(50点満点)となるものです。その結果、高学年になるにつれて平均点が上がっていました。これは予想通りの結果でしたが、小学5年生で41点の生徒がいたのは驚きでした。たぶん彼は普段からよく本を読んでいるのでしょう。

▼ 文化ことば検定 推定語彙数診断(国大Qゼミ)より

9. 言い表す

- ① () 作文などを読み上げること。
- ② () 口げんか、口論。
- ③ () 考えやようすを、言葉で表すこと。

10. 一旦

- ① () 立ち止まること。
- ② () 一度、ひとたび。
- ③ () じっくり考えること。

47. 公明

- ① () みんなの前で堂々と発表すること。
- ② () 間違いを正すこと。
- ③ () 正しく、かくしだてをしないこと。

48. 事によると

- ① () やっぱり・きつと。
- ② () もしかしたら・ひよっとしたら。
- ③ () 聞いた話によると。

今月から始めることになった速読教室(ことばの学校)ですが、体験に来てくれた生徒の多くが、そのまま受講を希望してくれました。小学生が一時間もの間、飽きずに本を読むのか心配していたのですが、当の生徒たちの感想を聞いてみると「おもしろくて、あっという間に時間が過ぎた。」との声が多く、かなり集中して、楽しく本に親しんでくれています。この「楽しく」が、生徒たちの学習環境において、私が最も望んでいることです。子どもたちが興味を示していないのに無理やりにやらせると、逆効果になることが多いものです。同じように、〇〇式の算数にも疑問を感じます。もちろん計算力を身につけるにはある意味でプラスの効果があるのですが、計算だけの能力が先行し、文章や図形を考える力が極端に劣ってしまう傾向にあります。本人は小学生なのに中学生の範囲の計算が出来ることで、自分は数学が出来る優秀な生徒だと勘違いしてどんどん先の単元に進んでいきます。しかし、浅くしか理解していないため、私立中学の入試問題のように思考力を問う問題にはめっぽう弱い頭になってしまうのです。計算する「スピード」が速くなることも確かに重要ですが、今自分が行っている計算はどんな「意味」を持ち、どんな答えを導くための「方法」であるのか、ここを理解することが実は何よりも大事で、大切にしなければならないところではないでしょうか。

子どもたちが興味を示した上で、深く思考しながら、着実に学力を身につけて前へ進む。

この手順が大切ですよ。確かに周りの人より早く進むのはかっこいいと感じるのかも知れませんが、私の目から見ると愚かで、危うく映ります。本当の意味での「学ぶ力」をつけられるよう努力していきましょう。

以下が、今回実施した語彙数診断テストの結果となります。

学年	小3	小4	小5	小6	公中1	私中1	公中2	私中2	公中3
平均	25.0	25.8	29.5	32.1	34.6	34.5	35.7	38.4	36.1
最高点	26	28	41	39	41	40	41	44	41

連絡事項

漢字検定 検定日 6月7日(土) 申込×切 4月30日(水)

英語検定 検定日 6月15日(日) 申込×切 5月10日(土)